こしき谷

浅井善太郎

徒然草の六十一段に『御産の時、こしきおとす事は、さだまれる事にはあらず。御胞衣とどこほる時の、まじなひなり。とどこほらせたまはねば、この事なし。下ざまよりことおこりて、させる本説なし。大原のさとのこしきをめすなり。ふるき宝蔵の絵に、いやしき人の子うみたる所に、こしきおとしたるをかきたり。』とあり。后妃などの御出産の時、後産（胎盤）が下りない時、皇子御誕生の時は御殿の棟からこしきを南に落し、皇女御誕生の時は北へ落すと平家物語にも出ている。子が生れてから、子が敷いていた胎盤（胞衣のこと、子敷きとも云う）が下りるが、難産になるとこの子敷きが下りないで困ることがある。そこで後産の下りるようにこしき（米をむ

す道具、米を炊ぐ道具）を高所から落すまじないをする。このこしきは特に大原（大腹）の里から取寄せるとある。

これについて甑谷という地名があちこちにある。敦賀市堂村の氏神鶉神社の鎮座する谷を甑谷と云い、その境内に薬師堂がある。そして薬師堂から少しはなれてこどもの墓場がある。村人にたずねたところ、そのこどもの墓場はお産した時、胎盤を埋葬する胞衣塚であることがわかった。この地方でも女の難産を恐れてこしきを山頂から谷へ落したことがうかがえる。県内にはこのほかに丹生郡清水町に甑谷がある。私は寡聞にしてこの清水町の甑谷にこのような伝承があることは聞いていないが、若しかしたらあるのではないか。土地の方の御教示をお願いします。

山の神祭

毎年十二月九日の敦賀市赤崎のこどもの山の神祭は、地方の奇祭としてこゝ数年その度毎に新聞に報道されてもいるが、これについて書いてみよう。

敦賀市では山の神の日は十二月九日で、この日、木びき・炭焼き・猟師・山し（山で生活するもの）は一日仕事を休んで山の神を祭る。敦賀市江良・刀根の二区は三月九日に山の神を祭ると云う。

赤崎では、その年の十二月一日になると、七才から十四才までのこどもが、その年の新築した家か、普請をした家を頼みにまわつて講宿をお願いする。そしてその日からツトにする藁を用意して、参加する子供の数だけのツトを九日までにつくる。まずその中の年長者の十四才（二人以上の場合は抽せん）のものが一人総ての世話をやく大将となる。そして八才以上のものが祭りを勤めることになり、七才のものは下駄並べの役にまわる。八才か十四才のものが二十人居るとすると、大将を除いて十九人のものが持つツトを用意する。ツトの作り方は藁のはかまをきれいにとつて、三つ編みにする。そして二人目から二十人目までの者が持つツトを作るのだが、二人目の者が持つツトは一番大きい太い三つ編みで、三人目から二人目の持つ三つ編みよりは細くそして三つ編み二本をこしらえて両端を細縄で結ぶ。以下三つ編みを一本ずつ増すごとに三つ編みを細くして、二十人目は細い三つ編みを十九本を一個にして両端を細縄で結んで十九個のツトを準備する。このツトを共同作業で前の八日までに仕上げねばならぬ。そのほか、米・しとき・神酒を用意する。米は各家々から一合ずつ集める。新調するものは下駄とパンツで、十二月九日いよいよ当日になると午前十時頃講宿に集つて来る。講宿では二三人親類縁者の手伝を頼んで、食事の準備にかゝる。座敷には床の間に山の神を祭り、神酒・しときその他のお供えをする。十一時になるといよいよ祭りの準備にかゝる。八才から十四才のものは新調のパンツ一つの素裸になる。出発前に力飯をたべ、神酒をいただく。そして各自のツトを両手で持つ。大将もパンツ一つの素裸になつて腰に〆縄を帯にして、神酒・シトキを持つて先頭に立つ。そして座敷の中で大声に気勢をあげて、

山の神の祭やい、そりや何の祭やい。

のかけ声勇しく、元気一ぱいで、講宿から約二三百メートル離れた大日堂まではだしで素裸で大将を先頭に走る。そして大日堂の境内の松の幹に全部のツトを〆縄で結んで、お堂の中でシトキ（餅米の粉を酒でこねたもの）を体に塗つて講宿に帰つて来

る。以前はもつと山奥に入つて狐塚まで走つたということである。シトキを体に塗ること、狐塚で山の神祭をやつたこと、山の神とお地蔵様のことを考えると、昔の人がまごころこめて山の神に奉仕した姿が偲ばれる。講宿に帰つて来ると、七才のこども達が走つた子供達の下駄と手拭を足洗い場まで持つて来て並べる。正午までに走る行事を終つて御馳走をこしらえてもらつて昼食をたべ、午后は講宿で楽しく遊んで暮す。

赤崎の山の神は何であるかというと、一月十日にさきの大日堂で大日如来のお祭りがある。この日、昔村を荒した山の神を退治して村人が食べたという仕来りが当日の持寄る御馳走に現われる。鵺という大鳥で、体は二又大根、翼はこんぶ、内臓は煮豆、足はわらびで、今も御馳走に二又大根・こんぶ・煮豆・乾わらびがつかわれている。鵺は昔のむさゝびのようなもので、獣であつて飛ぶことができる動物らしい。ともかく大日祭りにご馳走を持ちよつて酒盛りするのである。

（敦賀市文化財委員）